整理番号

D－5－3　　349

標 題 名

畑作害虫駆除予防方法

著 者 名

発行者名

茨城県農会

発 行 年

明治３５

製作年月

平成２８年８月

畑作害虫驅除豫防方法

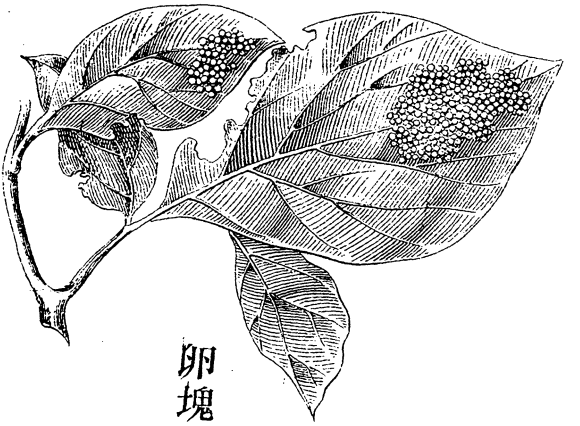
（地蠶ノ部）

（茨城印刷組合資會社印行）

近年地蝨ノ發生甚シク縣下至ル處蔓延シテ其ノ被害不尠サルヲ以テ驅除豫防ノ實行ニ便ス可ル爲メ今回本縣農事試驗場ノ調査ヲ得テ農會員ニ頒ツモノナリ

明治三十五年八月

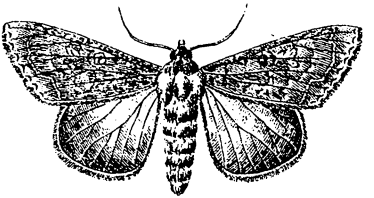
茨城縣農會



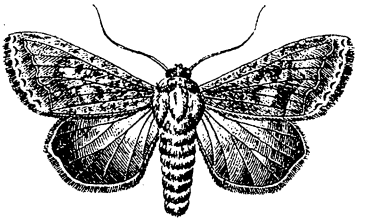
卵塊

蛹

幼虫



雄



雌

畑作害虫驅除豫防方法（地蚕ノ部）

地蠶（ヨトウムシ、エントウキリムシ、ブトウムシ、）

地蚕ハ重ニ豌豆、蚕豆、油菜、蕎麥等ニ大害ヲ與フルモノナレ𪜈其蕃殖蔓延スルニ於テハ大小豆、甘藷、蔬菜類ヲモ蝕害シ食盡クレハ遂ニ山林ニ及シ一モ青草ヲ殘サヽルコアリ實ニ恐ルベキ害虫ト云フベシ此害虫ハ年二回發生スルモノニシテ第一回ノ發生ハ凡ソ五月下旬ニ始マリ六月上旬ニ至ル母蛾ハ灰褐色ニシテ大サ七八分位ニテ夜間飛翔シテ豌豆、蚕豆、油菜、其他蔬菜類ノ葉裏ニ産卵ス、卵ハ球狀ニシテ粒々相接シ凡ソ四五百粒ヲ一塊トナス其色初メハ淡褐色ナルモ漸々黒褐色ニ變シ通常五六日ヲ經テ孵化シ淡綠色ノ大サ二厘位ノ幼虫（コムシ）ト

ナリ恰モ尺蠖（シャクトリムシ）ノ如ク進行ス晝夜葉裏ニ共接シテ蝕害シツヽアルモ其三回脫皮ヲ終リテ后ハ晝間ハ食草下土中ニ潛伏シ夜間ノミ葉ニ上リ蝕害ス是夜盜虫ノ名アル所以ナリ四回脫皮シ十分成長シタル片ハ土中ニ入リ蛹ニ化ス此期ハ凡ソ六月下旬頃ナルヲ常トス蛹ハ大サ六七分赤褐色ニシテ尾端ニ鋭キ突起ヲ有シ凡ソ八月下旬乃至九月上旬ニ至リ再ヒ蛾（ガ）ニ化シテ產卵ス之レ第二回ノ發生ナリ此際ニハ蛾（ガ）ハ重ニ秋薯麥ノ葉裏ニ產卵ス此卵ヨリ孵化シタル幼虫（コムシ）ハ第一回目ノ如キ經過ヲナシ遂ニ土中ニ潛伏シ蛹又幼虫ニテ越年シ翌年再ヒ被害ヲナスナリ

豫防法

一、豌豆、蚕豆等ト大小麥トノ混合作ヲナサヽルヿ

二、桑園又ハ茶園ニ豌豆、蚕豆又ハ蕎麥ノ間作ヲナサヽルヿ

三、豌豆、蚕豆、蕎麥等ヲ栽培セントスルキハ豫メ溝ヲ堀ルニ足ルヘキ余地ヲ置キ他日發生セシキ驅除豫防ノ備トナスヿ

四、此害虫發生地跡作ハ可成他ノ作物ヲ栽培スルヿ

五、此害虫發生地跡ニハ小區域ヲ限リ豌豆、蕎麥等ノ好餌ヲ栽培シ之レニ誘集シ產卵セシメ初發ニ際シ速カニ刈取リ燒キ拂フヘシ

六、第二回目發生甚シキ圃ハ冬季中ニ打起シ其蟄伏蛹ヲ寒天ニ曝露シ鳥獸ニ啄マシメ或ハ凍死セシムルモ大ニ豫防トナルナリ

驅除法

一、豌豆、蚕豆、蕎麥等ノ葉裏ニ産卵セル卵塊ヲ採集シ燒棄スヘシ

二、孵卵ノ當時ハ葉裏ニ共接シテ蝕害シ表皮ノ薄膜ヲ殘留シテ点々葉面ニ小孔ヲ現ハスヲ以テ此小孔ヲ認メタルトキハ速カニ其莖葉共刈取リ燒キ拂フヘシ

但シ其部分ノ周圍ニハ他ニ傳播ヲ防クタメ豫メ遮斷溝ヲ堀リ置クヲ要ス

三、蕃殖甚シク蔓延ノ虞アルトキハ其周圍ニ速カニ遮斷溝ヲ設クベシ

此溝ハ被害地ヨリ無害地ヘ侵入スルヲ豫防スル爲メニモ必要ナリ

四、遮斷溝設置法被害圃ノ四圍ニ深サ巾共一尺内外ノ溝ヲ堀リ開ヲ

キ其溝ノ兩側ハ垂直ニシ又更ニ其溝底ニ五間隔リ位ニ深サ五寸以上ノ陷穴ヲ堀リ置クヤハ溝中ニ陷リタル害虫ハ逃路ヲ求メントシ其中ヲ往來シ遂ニ穴中ニ集合スルガ故ニ時々之ヲ壓殺スヘシ

五、被圍中ノ處々ニ棒抗ヲ以テ陷穴ヲ穿チ置クヘシ夜間移轉スル際此内ニ陷リタルヲ捕殺スヘシ

注意　遮斷溝ヲ堀リタルヤハ時々見廻リ其溝ノ埋沒セルヲ浚ヒ又ハ陷落害虫ノ捕殺ヲ怠ルヘカラス